

## 領域不足でSAVEできなくなったら

プログラムやデータを何度も繰り返し修正したり、新しいメンバをいくつも作成したりするうちに修正した内容や新しいメンバが保存 (SAVE) できない事態に陥ることがある。この原因には次の2種類がある。

- ① システム異常終了 E37 と表示される・・・修正・保存を繰り返すと使用スペース量が指定した増分値に従ってどんどん自動拡張されるが、増分回数を表す割当てエクステント数が16になるとそれ以上記憶域が拡張されなくなる。そのとき保存したいデータ量が空きスペース量 (使用可能領域) より多いと、保存することが不可能となり、EDIT の画面の右上隅にシステム異常終了E37 と表示されて EDIT 画面を終了することができなくなる。この場合、まず PFD の画面を分割してもう一方の画面でデータセットの圧縮をした後、再び保存あるいは EDIT の終了操作をすると、この事態を避けられることがある。それでも駄目な場合は、後に示す方法で対処しなければならない。
- ② ディレクトリ領域不足と表示される・・・新しいメンバを作成して保存しようとした場合に、ディレクトリ・ブロックの空きスペース量が不足のため作成したメンバに関する情報を追加できなくなる。このような場合に EDIT の画面の右上隅にディレクトリ領域不足あるいはシステム異常終了 B37 と表示される。この場合、整理できる不要なメンバがあれば画面分割してもう一方の画面で不要なメンバを消去すれば保存が可能となる。そうでない場合には次に示す方法によらなければならない。

なお、上記の事態はメンバの複写・移動操作などの場合にも同様の理由で生ずることもあるが、対処の方法は同様である。

### 【E37, ディレクトリ領域不足エラーの対処】

E37 は割り当てスペース量の不足により、ディレクトリ領域不足は割り当てディレクトリ・ブロック数の不足に起因して生ずるエラーである。したがって、基本的には、それらの割り当て量を増した新しいデータセットを別に準備し、まず保存できない EDIT 中のメンバをそのデータセットに保存する。このままでは、同じタイプのデータセットが2つできるので、これを1つのデータセットにまとめたい場合は、さらに残りのメンバを新しく作成したデータセットに移動し、元のデータセットを消去すればよい。図1にその処理の様子を示す。すなわち、

- ① まず PFD の画面を分割し (PF2)、もう一方の画面で保存できなくなったデータセットに関する情報を表示させる。この操作によって属性やスペース量に関する情報が計算機システムに記憶される。
- ② 図1(a), (b)のように、新しいデータセット名を指定して別のデータセットを確保する。その際に、E37 のエラーの場合は初期量を①で調べたスペース使用量より大きめに指定する。一方、ディレ

(a)

```

日本語EDIT --- AB9999.DDD.DATA(MMM) - 01.02 ----- システム異常終了 E37
. . . . . < DATASETユティリティ > . . . . .
オプション ==> A

A - 新データセットを割り当てる。
D - データセットを削除する。
R - データセット名を変更する。      空白 - データセットの属性を表示する。

PFDライブラリデータセット:
プロジェクト名 ==> AB9999
ライブラリ名   ==> EEE
タイプ名       ==> DATA

PFDライブラリ以外のデータセット:
データセット名 ==>
. . . . .

```



(b)

```

日本語EDIT --- AB9999.DDD.DATA(MMM) - 01.02 ----- システム異常終了 E37
. . . . . < 新データセット割当てメニュー > . . . . .
コマンド ==>

+-----+
| データセット名: AB9999.EEE.DATA |
+-----+
| ボリューム通し番号 ==>          (空白時には省略値が採られます) |
| スペース単位       ==> BLKS     (BLKS/TRKS/CYLSを指定して下さい) |
| 初期量             ==> 50       (上記のスペース単位が採られます) |
| 増分量             ==> 30       (上記のスペース単位が採られます) |
| ディレクトリブロック数 ==> 10  (0を指定すると順編成になります) |
| レコード形式       ==> FB |
| レコード長         ==> 80 |
| ブロック長         ==> 3120 |
+-----+

```



(c)

```

日本語EDIT --- AB9999.DDD.DATA(MMM) - 01.02 ----- システム異常終了 E37
コマンド ==> S EEE.DATA(MMM)      移動量 ==> CUR
***** データの先頭 *****V10L20*****
000001  1  2  13  84  335  6
000002  3  9  23  55   2  98
. . . . .

```



図1 E37エラーの場合の対処の例 (その1)

(d)

```
日本語EDIT --- AB9999.DDD.DATA(MMM) - 01.02 ----- 編集データ保存
.....< MOVE/COPYユティリティ >.....
オプション ==> C

MP - データセットやメンバを移動、及びプリントする。      M - 移動のみ行う。
CP - データセットやメンバを複写、及びプリントする。      C - 複写のみ行う。

移動/複写元データセットを指定して下さい。

PFDライブラリデータセット:
プロジェクト名 ==> AB9999
ライブラリ名   ==> DDD
タイプ名       ==> DATA
メンバ名       ==> *
                (空白の場合はメンバ名選択リストを表示し、
                * の場合は全メンバを処理します)

PFDライブラリ以外のデータセット:
.....
```

図1 E37エラーの場合の対処の例(その2)

クトリ領域不足のエラーの場合は、ディレクトリ・ブロック数を大きめに指定する。なお、レコード形式、レコード長、ブロック長は変更する必要はない。

- ③ 図1(c)に示すように、EDITの画面にSAVEコマンドを次のように入力して新しく確保したデータセットにEDIT中の内容を保存しCANCELコマンドでEDITを終了する。

```
COMMAND ==> S EEE.DATA(MMM)
```

- ④ 再びもう一方の画面で移動・複写ユティリティを選択し、旧データセットの全メンバを新しいデータセットに複写する。その場合、複写元の旧データセットを指定する際に図1(d)のようにメンバ指定欄に\*を指定すると便利である。ただし、複写先のデータセット指定画面では置き換えの指定欄をNOとすることを忘れてはならない。

```
REPLACE SAVE-NAMED MEMBERS ==> NO (YES OR NO)
```

- ⑤ すべてのメンバが複写されたことを確認後、旧データセットをデータセット・ユティリティで消去し、必要ならば新しく作成したデータセット名を元のユーザ指定名に改名すればよい。

【K. Y.】